

# トラック脱輪 冬多発

## 件数、10年で9倍超

トラックのタイヤが走行中に外れる事故が相次いでいる。冬用タイヤへの交換直後が目立ち、11月以降に青森県や北海道などで立て続けに発生。死者も出た。2022年度の件数は10年前の9倍超に増えた。国土交通省は運送会社への行政処分を導入するなど対策を急ぐ。

## タイヤ交換直後、目立つ 点検・締め直し呼びかけ

「タイヤを交換したら定期的に点検してください」。関東自動車道の新厩料金所で6日、国土交通省関東運輸局の職員が大型トラックを呼び止め、タイヤを固定するナットの緩みがないか専用器具で入念にチェックした。ドライバーに点検方法をまとめたチラシも配り、注意を呼びかけた。

11月末以降、トラックなど大型車の脱輪事故が目立つ。12月1日に青森県八戸市の八戸自動車道を走行中の大型トラックのタイヤが外れ、道路脇で作業していた男性に衝突。男性は亡くなった。北海道でも同5・6日に

ち約3割の39件が12月に起きた。23年2月までの3カ月で全体の56%を占める。

事故は冬用タイヤに交換した直後の車両で多くみられる。同省の調査では22年度の事故の半数強はタイヤの脱着作業から1カ月以内起きていた。

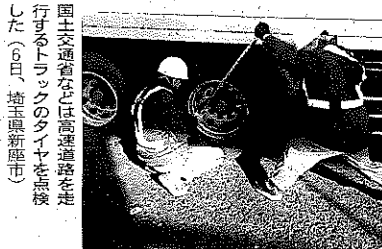
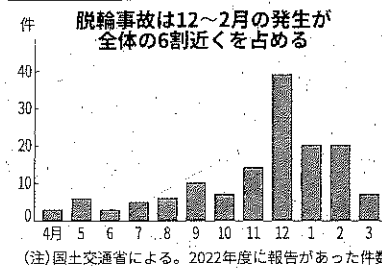
交換した冬型タイヤの固定が十分でない状態で走行を続け、脱輪するケースが多いとみられる。「降雪予想がある」と、冬型タイヤへの交換作業が集中する。作業に追われて、中には固定が不十分な車両が生じている可能性がある(「同省整備課」)。

大型車の脱輪事故は増加傾向にある。12年度は

15件だったが19年度に100件を超えた。同省整備課は「タイヤの整備や点検が不十分な事業者が増えていると分析する。一因とみられるのが深刻な人手不足だ。トラックなどの「自動車運転従事者」の10月の有効求人倍率は2.67倍と高い。安全な運行や整備作業に支障をきたしかねない状況が続く。

脱輪事故を防ぐのに重要なのは「増し締め」と呼ばれる作業だ。タイヤ交換後の走行でナットが緩むことがある。緩みを再び締め付け直すのが増し締めで、50～100ナットを1日目で確認できる。担当者は「事故が起きかねない」と意識を高め

社では、タイヤ装着後にナットとホイールにライオンを引くマーキングを施している。ナットが緩むばホイールとライオンがずれ、目で確認できる。担当者は「事故が起きかねない」と意識を高め



国土交通省などは高速道路を走行するトラックのタイヤを点検した(6日、埼玉県新座市)

て確実に点検作業を実施していく必要がある」と話す。

相次ぐ事故を受け、国土交通省は12月4日付で全国の運送会社に保有トラックのタイヤの取り付け状況を一斉点検するよう指示。冬前の10月には、脱輪事故を起したトラック車両の使用を一定期間停止できる行政処分も導入した。1回目は20日間、2回目以降は40日間、パネルテストを料子で事業者側の安全意識を高める。

(宮田圭、村越康二)